

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**埼玉県 狭山市立中央中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

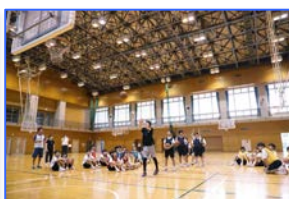
まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



# 実施内容

■期 日 : 2019年10月15日 (火)

■ク ラ ス : 2年2組 (36名) 、2年4組 (36名)

■オリンピアン : 山口 美咲 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京大会、リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・運動の時間は「オリンピックバリューの3つはどんな事なのか」と「どんな自分になりたいのか」を意識してほしいと話した。
- ・準備体操として、タッチ鬼等を実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・12人13脚を実施。
- ・最後に山口先生と一緒にクラス全員でチャレンジ。



## 4. まとめ



- ・今日の授業について、全力で取り組んだか、楽しかったかを生徒に確認し、山口先生も楽しかったと話した。
- ・自身の経験や今日のテーマについて、座学の授業で伝えたいと話し、授業終了。





■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・映像を見せながら自己紹介し、クーベルタンの言葉等を説明した後、自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて紹介する。

3. グループワーク



発問：①どのような自分になりたいのか考え、書き出してみよう。  
 ②なりたい自分になるために、i 夢や目標を考えてみよう。ii 理由を考えてみよう。iii 具体的にできることを3つ書き出してみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

「①誰にでも優しくできる人になりたい。② i 全員が仲良く笑顔が絶えない世界。ii いじめや差別をなくしたいから。iii いじめをしない。人の気持ちに寄り添う。いじめを見つけたら注意する。」  
 「①誰にでも頼られる優しい人。② i 検察官。ii テレビで見てカッコいいと思った。やりがいがありそうだった。iii 周りのことを考えて行動する。」等

4. まとめ



・理想に優劣はなく、なりたい自分の姿を見つけることが1番大切である。なりたい自分の姿を見つけた後は、具体的に何ができるか考え実践してほしい。自分一人で考えることも大切だが、周りからアドバイスをもらうことも大切である。夢を見失った時は、初心に立ち戻り、夢を叶えたい理由をもう1度考えてみてほしいと伝え、授業終了。



# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年10月16日 (水)

■ク ラ ス : 2年1組 (36名)、2年3組 (37名)

■オリンピアン : 高尾 千穂 先生 (スキー/フリースタイル) 【出場オリンピック/ソチ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



・運動の時間は「チームで協力する」「ベストを尽くす」「目的意識を持つ」という3つを意識して工夫しながら取り組んでほしいと話し、準備体操に移る。

## 3. 主運動



・8の字跳びを2班毎3チームで実施。

## 4. まとめ



・3つの約束を意識して取り組めたかを確認し、記録が伸びたということは、それらを意識できていたからであり、素晴らしいと称えた。  
・座学の授業では、オリンピックバリュー(オリンピックの価値)について、経験を踏まえて考えていきたいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・スライドや映像、実際に使用していた競技用具を見せながら競技のルール等について話し、自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



発問：目標に向けて頑張っていること(勉強、部活動、習い事、音楽会等)をオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)

「部活で人よりも努力する」「合唱練習で大きい声で真面目に歌う」(エクセレンス)

「部活の仲間と同じ目標に向かう」「クラスの皆で協力する」(フレンドシップ)

「同じレベルの人と競いながら勉強する」「音楽会で観客を感動させる」(リスペクト)

4. まとめ



・目標を達成するには突き詰めて考えることが必要であり、考えることで次の行動が変わってくる。目標を持つと物事への取り組み方が変わるため、普段から目標を持ち、どうすれば達成できるかを意識して過ごしてほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真  
2年1組



2年2組





■ 集合写真  
2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

